



「二枚ぬり絵法」を利用した慢性期精神障害者の心理アセスメント

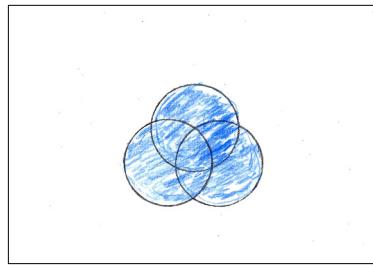
キーワード

心理アセスメント, 二枚ぬり絵法, 精神障害, 慢性期, 統合失調症, Suffering (苦悩)

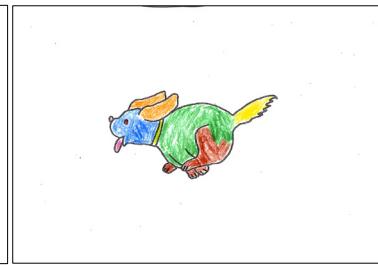
研究内容

精神科医療の中で、臨床心理学の領域が貢献している支援法の一つに、心理検査を通して心理アセスメントがあります。しかし、長期入院を余儀なくされているような、慢性期の精神障害者に対する感度の高い心理検査は、十分に確立されていないのが現状です。

そこで、慢性期の方々にも実施可能な心理アセスメント・ツールとして、ぬり絵課題（「二枚ぬり絵法」）を創案しました。これまでに、ぬり絵表現から大まかな精神症状や認知機能の重症度が把握できることなどを明らかにしました。また、心理支援においては、精神障害を抱える当事者が感じる主観的な経験を理解することが必須であるため、Suffering（苦悩）にもフォーカスをあてた研究を進めています。これによって、慢性期の精神障害者に対する厚みのある心理支援を提供することが可能となります。



a 幾何図形 (A5 版)



b 子犬の絵柄 (A5 版)

長期入院中の慢性期統合失調症者にみられる二枚ぬり絵法の典型的な彩色特徴

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- 五十嵐愛・畠地良平・内田竜人・津川律子・横田正夫 (2024). 二枚ぬり絵法からみた慢性統合失調症者とアルツハイマー型認知症者の構成障害：時計描画テストとの関連. 臨床心理学, 24(3), 364-372.
- 五十嵐愛・畠地良平・内田竜人・津川律子・横田正夫 (2023). 慢性統合失調症とアルツハイマー型認知症の二枚ぬり絵法における全体的特徴の比較検討と認知機能との関連. 臨床描画研究, 38, 122-139.
- 五十嵐愛・横田正夫 (2020). 慢性統合失調症患者におけるぬり絵の臨床的利用法について. 臨床描画研究, 35, 84-100.

社会連携・産学連携の可能性

二枚ぬり絵法は簡便に実施することができるため、精神障害を抱えている方々を対象に企業や事業所で実施するといった応用展開を目指しています。また、慢性期の精神障害者を対象とした共同研究が可能です。